



桜一第49号
令和5年3月1日

桜岡小学校ホームページ <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/sakuraoka>

「今年度を振り返って
～子どもたちの成長の姿から～」
校長 後藤 俊哉



草木萌動（そうもくめばえいずる）季節となりました。春の訪れを感じる今日この頃です。コロナ禍でスタートを切った令和4年度もあっという間に終わりを迎えようとしております。

2月14日（火）には、「横浜市のキャリア教育（自分づくり教育）『はまっ子未来カンパニープロジェクト』学習発表会～はまっ子が横浜の未来を語る会～」が開催されました。このプロジェクトには市内70校が参加しており、2日間の開催ですが、14日は5校が出演しました。桜岡小学校からは6年生が参加し、最後に発表しました。

「フードロスからよりよい未来を考えよう～未利用鯖を使って」のテーマで、Spicy Monkeys'、交易食品株式会社、横浜丸魚株式会社、株式会社良品計画、千代田加工紙販売株式会社5社の協賛のもと、サバカレーを販売できるようになりました。当日、山中市長もお見えになり、「素晴らしい取組ですね！」と称賛していただきました。

昨年度に引き続き、横浜市教育委員会「カリキュラム・マネジメント」研究開発校として、研究を進めてまいりました。1月24日（火）に2年間の研究の成果を発表しました。その様子が2月20日（月）の日本教育新聞に掲載されましたので、一部ご紹介いたします。

1月24日の研究授業。5年3組の国語科「情報の受け取り方をアップデートして、受け手の力を磨こう『想像力のスイッチを入れよう』」の授業。新型コロナウイルス感染拡大初期に地元地域で起こったと仮定したトイレットペーパーの品薄に関する記事を、子どもたちが「想像力のスイッチ」を使って読み、友達と考えを交流し、情報を読む時の自分の考えを広げたり、深めたりすることを目指した。

記事を読んだ子どもたちは「事実か、印象か」「他の見方はないか」など活用した四つのスイッチごとに色分けして線を引き、どう感じたかを考えた後、グループで意見を交換した。友達の意見を聞いたことで、一人一人に新しい気づきが生まれていく。全体での意見交流では、根拠をもって自分たちの考えを伝えながら、活発に話し合う姿が見られた。

担任は子どもたちの考えを確認したり、話合いの内容を聞いたり、そこでの表情を見取ったり、必要に応じてアドバイスしたりしながら授業を進めていた。

桜岡小学校では「今後も子どもの『before』『after』に着目して、一人一人の子どもの資質・能力を高めていくための研究を深めていきたい」としている。

昨年度より、「一人一人の資質・能力を育む」ためには、まずは子どもの姿をとらえ、よい点を引き出し、価値付けして共有化してきました。「子どもの姿で語る研究協議会の充実」は、子どもの変容や子どもの具体的な姿を語る、形式にとらわれない協議会を目指してきました。動画や静止画を基に「学びの真顔」「学びの笑顔」の視点から、子どもの姿を共有することで、授業では子どもたちが相手のことを分かろうとして聞いたり、相手に分かってもらおうと話したりするなど、自分ごととして考える姿が増えてきました。教員も子どもの具体的な姿を共有することで、子どもを見抜く目が身に付いてきました。引き続き研究を深めてまいりたいと思います。

今年度、本校学校教育に対し、ご理解・ご協力いただきありがとうございます。ありがとうございました。